LNCaP□胞

300265

LNCaP□胞は、前立腺癌患者のリンパ節転移病巣に由来し、特に癌の進行におけるアンドロゲンとアンドロゲン受容体（ AR）の動態の役割を研究する上で、前立腺癌研究の重要なツールである。LNCaP□胞株は、アンドロゲン感受性の増殖を特徴とし、ホルモン操作に対する前立腺癌の反応の基礎となるメカニズムに迫る窓を提供する。
転移性前立腺癌のモデルとして、親 LNCaP□胞とそのサブライン、例えば LNCaPクローンFGCは、特に骨への転移という状況において、ヒト前立腺癌で観察されるような骨芽 □胞性病変を形成し、疾患の進行について臨床的に関連した洞察を提供する。
LNCaPヒト前立腺ガン□胞株は、より広いステロイド結合特異性を持つ AR遺伝子の変異型を発現しているため、 AR活性と前立腺ガンの進行との間の複雑な相互作用を理解する上で極めて重要である。これには、 PSAやNKx3.1のような、前立腺上皮□胞機能に極めて重要なAR下流標的の検討も含まれる。LNCaP□胞はさらに、□胞内薬物送達戦略の範囲内で、riplによって誘導されるような□胞毒性研究、あるいはアミグダリンのような化合物の潜在的な治療効果の研究に用いられる。
要約すると、ヒト前立腺ガン□胞株LNCaPは、ガンの進行と前立腺ガンにおけるアンドロゲンの役割を理解する上で礎石となり、ホルモン応答性ガン、抵抗性前立腺ガンの課題、治療的介入の可能性についての洞察を提供する。 LNCaP□胞株は、DU145□胞やPC3□胞と並んで、古典的で最も広く用いられているヒト前立腺癌 □胞株の一つと考えられている。

概要

□明

LNCaP□胞は、前立腺癌患者のリンパ節転移病巣に由来し、特に癌の進行におけるアンドロゲンとアンドロゲン受容体（ AR）の動態の役割を研究する上で、前立腺癌研究の重要なツールである。LNCaP□胞株は、アンドロゲン感受性の増殖を特徴とし、ホルモン操作に対する前立腺癌の反応の基礎となるメカニズムに迫る窓を提供する。
転移性前立腺癌のモデルとして、親 LNCaP□胞とそのサブライン、例えば LNCaPクローンFGCは、特に骨への転移という状況において、ヒト前立腺癌で観察されるような骨芽 □胞性病変を形成し、疾患の進行について臨床的に関連した洞察を提供する。
LNCaPヒト前立腺ガン□胞株は、より広いステロイド結合特異性を持つ AR遺伝子の変異型を発現しているため、 AR活性と前立腺ガンの進行との間の複雑な相互作用を理解する上で極めて重要である。これには、 PSAやNKx3.1のような、前立腺上皮□胞機能に極めて重要なAR下流標的の検討も含まれる。LNCaP□胞はさらに、□胞内薬物送達戦略の範囲内で、riplによって誘導されるような□胞毒性研究、あるいはアミグダリンのような化合物の潜在的な治療効果の研究に用いられる。
要約すると、ヒト前立腺ガン□胞株LNCaPは、ガンの進行と前立腺ガンにおけるアンドロゲンの役割を理解する上で礎石となり、ホルモン応答性ガン、抵抗性前立腺ガンの課題、治療的介入の可能性についての洞察を提供する。 LNCaP□胞株は、DU145□胞やPC3□胞と並んで、古典的で最も広く用いられているヒト前立腺癌 □胞株の一つと考えられている。

ティッシュ	前立腺
病気	癌腫
転移部位	左鎖骨上リンパ節

同義語

- LNCAP
- LNCap
- Ln-Cap
- Lymph Node Carcinoma of the prostate

分類

生物	人間
セックス	男性
成長特性	アドヘレント
バイオセーフティレベル	1

特徴

形態学	上皮様
腫瘍形成性	はい、ヌードマウスで

核型

擬2倍体雄、マーカー染色体7本、モード数＝46、範囲＝33~91

Cytion GmbH
Nikola-Tesla-Str. 3
69124 Heidelberg
Tel: +49 (0)6221 405780
info@cytion.com
cytion.com

Registered office Heidelberg
VAT ID: DE283292917
Local court Mannheim - HRB 714394
CEO / Geschäftsführer: Jonathan Steubing

Banking information
Sparkasse Heidelberg
IBAN: DE35 6725 0020 0009 2076 86
BIC: SOLADES1HDB

倍増時間	60時間

識別子

引用

LNCaP（Cytion カタログ番号 300265）

NCBI 納税者番号	9606
セロサウルス	CVCL_0395

発現と感受性

発現している受容体

アンドロゲン、エストロゲン

タンパク質の発現

P53陽性

製品

ヒト前立腺酸性ホスファターゼ、前立腺特異抗原

取り扱いと飼育

培地

RPMI1640，w：2.0mM安定グルタミン、w：2.0g/L NaHCO3（Cytion article number 820700a）

培養雰囲気	37°C，5%CO2、加湿雰囲気。

サプリメント

培地に熱不活性化10% FBSを加える。

解離試薬	アキュターゼ

継代培養

接着した□胞から古いメデュームを取り除き、カルシウムとマグネシウ ムを除いたPBSで洗浄する。T25フラスコでは3-5ml，T75フラスコでは5-10mlのPBSを使用する。次に、T25フラスコでは1-2ml，T75フラスコでは2.5mlのアキュターゼで□胞を完全に覆う。室温で8-10分間インキュベートし、□胞を剥離させる。インキュベーション後、□胞を10mlの培地と静かに混合して再懸濁し、300xgで3分間遠心する。上清を捨て、□胞を新しいメデュームに懸濁し、新しいメデュームの入った新しいフラスコに移す。

播種密度	1~2 × 10^4 □胞/cm^2
流体の更新	3日ごと
解凍後の回復	解凍後、□胞を5×10^4□胞/cm^2で播種し、凍結処理からの回復と接着を少なくとも 24時間以上行う。

解凍と培養

Confirm that the vial remains deeply frozen upon delivery, as cells are shipped on dry ice to maintain optimal temperatures during transit.
Upon receipt, either store the cryovial immediately at temperatures below -150°C to ensure the preservation of cellular integrity, or proceed to step 3 if immediate culturing is required.
For immediate culturing, swiftly thaw the vial by immersing it in a 37°C water bath with clean water and an antimicrobial agent, agitating gently for 40-60 seconds until a small ice clump remains.
Perform all subsequent steps under sterile conditions in a flow hood, disinfecting the cryovial with 70% ethanol before opening.
Carefully open the disinfected vial and transfer the cell suspension into a 15 ml centrifuge tube containing 8 ml of room-temperature culture medium, mixing gently.
Centrifuge the mixture at 300 x g for 3 minutes to separate the cells and carefully discard the supernatant containing residual freezing medium.
Gently resuspend the cell pellet in 10 ml of fresh culture medium. For adherent cells, divide the suspension between two T25 culture flasks; for suspension cultures, transfer all the medium into one T25 flask to promote effective cell interaction and growth.
Adhere to established subculture protocols for continued growth and maintenance of the cell line, ensuring reliable experimental outcomes.

Cytion GmbH
Nikola-Tesla-Str. 3
69124 Heidelberg
Tel: +49 (0)6221 405780
info@cytion.com
cytion.com

Registered office Heidelberg
VAT ID: DE283292917
Local court Mannheim - HRB 714394
CEO / Geschäftsführer: Jonathan Steubing

Banking information
Sparkasse Heidelberg
IBAN: DE35 6725 0020 0009 2076 86
BIC: SOLADES1HDB

品質管理と凍結保存

無菌性

マイコプラズマ汚染は、PCRベースのアッセイと発光ベースのマイコプラズマ検出法の両方を用いて除外される。
□菌、真菌、酵母のコンタミネーションがないことを確認するため、 □胞培養物は毎日目視検査が行われる。

凍結培地	凍結保存培地としては、融解後の生存率を十分に高めるために完全増殖培地（ FBSを含む）＋10%DMSO、または回復を促進し凍結によるストレスを軽減するために最適化された浸透保護剤と代謝安定剤を含む CM-1（Cytionカタログ番号800100）を使用している。

保管条件

長期保存の場合、バイアルを-150～-196℃の気相液体窒素に入れる。80℃での保存は、液体窒素に移す前の短い暫定措置としてのみ許容される。

配送条件

凍結保存された□胞株は、輸送中約-78℃を維持するのに十分な保冷剤とともに、有効な断熱包装でドライアイスとともに輸送される。受領後、直ちに容器を検査し、遅滞なくバイアルを適切な保管場所に移してください。

寄付者

ドナーの年齢	50年
民族	白人

法務・安全

安全上の注意事項

将来の融解のためにクライオバイアルを液体窒素に保存する場合、厳格な安全対策を遵守することが必須である。適切な保護手袋と保護衣は不可欠であり、液体窒素タンクへの凍結サンプルの移動中または液体窒素タンクからの凍結サンプルの移動中には、フェイスマスクまたは安全ゴーグルの使用が義務付けられている。これは、凍結試料を取り出す際に、凍結試料が爆発し、鋭利な破片が飛び散って怪我をするリスクを軽減するためである。

保証

サイシオンは、製品の品質と生存率を保証します。
当社では、培養を開始した時点で、当社施設からの出荷後 60日間、□胞が生存可能であることを保証しています。
すべての材料が、分析証明書および／または製品シートに記載された仕様に適合していることを保証します。
詳□については、<a href=""/Who-we-are/Warranty/"" hreflang=""x-default"">Warranty Statement をご参照ください。

物質移転契約書の締結が必要	Yes

Cytion GmbH
Nikola-Tesla-Str. 3
69124 Heidelberg
Tel: +49 (0)6221 405780
info@cytion.com
cytion.com

Registered office Heidelberg
VAT ID: DE283292917
Local court Mannheim - HRB 714394
CEO / Geschäftsführer: Jonathan Steubing

Banking information
Sparkasse Heidelberg
IBAN: DE35 6725 0020 0009 2076 86
BIC: SOLADES1HDB